

## 相生湾の干潟のカニ調査

相生子ども里海クラブ あいおいカニカニ調査隊

### はじめに

相生市では、相生の子ども達に、ふるさとの海である相生湾を中心とした海をテーマに環境学習、自然環境の保全・再生活動などを実施している。

その中で、様々な体験を通じて海を肌で感じ、多種多様な生物が住む相生湾の魅力と現状を知ることにより、相生湾を守り、育て、活用していくためにはどうしたらよいかを考えさせている。また、この活動を通じてふるさと相生を愛する子ども達が育てばと願っている。

この活動の中で、干潟のカニ調査を行ったことがきっかけで干潟のカニに魅了され、継続して調査を続けている子ども達が居り、その活動報告をする。



### 調査方法

調査期間：平成27年9月から平成28年1月の間の、休日。

調査場所：相生市にある3箇所の干潟であるが、特に規模の小さい1箇所をメインに調査をした。

調査方法：①現地で見つけた干潟のカニを捕獲、バケツに入れ、種別調査を行った。

②捕獲の際には、砂地、土、泥地、岩地のいずれの場所で捕獲したのかを記録した。

③調査時に、気温を測定、記録するようにした。(干潟の出現潮位については、調査員が潮位表にて確認)

④カニ達の写真も撮影するようにした。

調査員：小学2年生、小学1年生の兄弟



### 結果

17種のカニを発見することができたので以下に示す。(一部素人判断で判定を行っている個体もあり、また、干潟のカニでは無い物も含まれていますが、ご了承下さい。)

科名	和名	学名	兵庫県RDBランク
ベンケイガニ科	アカテガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>	B
ベンケイガニ科	クロベンケイガニ	<i>Chiromantes dehaani</i>	C
ベンケイガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>	C
ベンケイガニ科	ヒメアシハラガニ	<i>Helice japonica</i>	B
ベンケイガニ科	ハマガニ	<i>Chasmagnathus convexus</i>	B
ベンケイガニ科	クシテガニ	<i>Parasesarma plicatum</i>	A
ベンケイガニ科	フタバカクガニ	<i>Perisesarma bidens</i>	B
ベンケイガニ科	カクベンケイガニ	<i>Parasesarma pictum</i>	—
ベンケイガニ科	ユビアカベンケイガニ	<i>Parasesarma eacts</i>	C
オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>	C
コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>	C
コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>	C
モクズガニ科	モクズガニ	<i>Eriocbeir japonica</i>	—
モクズガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>	—
モクズガニ科	ヒライソガニ	<i>Gaetice depressus</i>	—
スナガニ科	スナガニ	<i>Ocypode stimpsoni</i>	B
スナガニ科	ハクセンシオマネキ	<i>Uca lactea</i>	C

## まとめと考察

今回は秋から冬の調査であったが、温度を測定することで、どのカニが、どれくらいの気温で冬眠するのかという目安が分かるものと思われる。しかし、本年は年末から年明けまでは暖冬ということもあり、少なからずカニ達の活動に影響を与えたのではないと思われる。数年間、年間を通じて調査を続けていくことにより、より正確なデータが取れ、カニ達の行動パターンが見えてくるものと思われる。以下に、干潟で発見したカニの、最後に確認できた日とその気温を示す。

科名	和名	最後に確認できた日	気温	居たところ 砂・土・泥・岩
ベンケイガニ科	アカテガニ	10/18	18.7	砂・土・泥・岩
ベンケイガニ科	クロベンケイガニ	10/25	20.1	砂・土・泥・岩
ベンケイガニ科	アシハラガニ	11/22	16.1	砂・土・泥・岩
ベンケイガニ科	ヒメアシハラガニ	10/25	20.1	砂・土・泥・岩
ベンケイガニ科	ハマガニ	11/22	16.1	砂・土・泥・岩
ベンケイガニ科	クシテガニ	12/24	13.9	砂・土・泥・岩
ベンケイガニ科	フタバカクガニ	11/22	16.1	砂・土・泥・岩
ベンケイガニ科	カクベンケイガニ	10/12	19.6	砂・土・泥・岩
ベンケイガニ科	ユビアカベンケイガニ	10/12	19.6	砂・土・泥・岩
オサガニ科	ヤマトオサガニ	1/3	12.2	砂・土・泥・岩
コメツキガニ科	コメツキガニ	10/18	18.7	砂・土・泥・岩
コメツキガニ科	チゴガニ	10/18	18.7	砂・土・泥・岩
モクズガニ科	モクズガニ	10/25	20.1	砂・土・泥・岩
モクズガニ科	ケフサイソガニ	1/9	9.0	砂・土・泥・岩
モクズガニ科	ヒライソガニ	1/9	9.0	砂・土・泥・岩
スナガニ科	スナガニ	10/18	18.7	砂・土・泥・岩
スナガニ科	ハクセンシオマネキ	10/18	18.7	砂・土・泥・岩

調査をした感想として、小型の砂地付近に住むカニ（コメツキガニ科、スナガニ科）（図1）の方が、気温の変化（低下）に敏感で、季節の進行が深まるにつれ見かけなくなるのが早かったように思われる。また、干潟では大型のカニ（ベンケイガニ科）についても、同様の事が言える。

気温の変化（低下）に強いと思われたのが、泥地から岩場にかけて生息しているカニ（オサガニ科、モクズガニ科）（図2）で、1月初旬の午後からの調査では、活動しているところが確認できた。

今回の調査で子ども達が気づいたことがあり、12月、1月の調査で、気温とカニ達の発見状況についてであるが、午前中の調査時の気温と、午後からの調査時の気温とが同じ気温であっても、午前中は発見できなかったが、午後からであれば発見できた、というものである。これは、半日程度日が当たった後の干潟の方が、カニ達の体温や、土中の温度が暖まり、活動できたのではないかと推測できる。

今後の調査であるが、今回実施した調査を継続しつつ、①今回の活動で見つけていないカニを見つける②春はいつごろから活動するのか③いつ頃から卵を持つようになるのか④アカテガニの産卵行動を観察する、としている。



図1（スナガニ）



図2（ヤマトオサガニ）